東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009年12月4日

ドゥアー（祈願）

ムスリムの皆様。変わることなく人間が必要としていることの一つは、偉大かつ慈悲深い力の支えを必要とすることです。さらに自らの状態を全能なアッラーに説明し助けを請い願うことです。こうした理由から私達はしばしばドゥア、つまり祈願することを必要としています。アッラーの御前で頭をさげつつすべての行為、そしてアッラーを満足させるためのすべての振る舞いは、ある意味でドゥアです。我々の預言者は（彼に平安あれ）このことに関して私達に忠告を与え『ドゥア（祈願）は崇拝行為である』（エブーダーヴード、ヴィトル，23）と述べられています。私達は毎日行っている五回の礼拝の中で次の開端章『わたしたちはあなたにのみ崇め仕え、あなたにのみ御助けを請い願う。わたしたちを正しい道に導きたまえ、あなたが御恵みを下された人々の道に、あなたの怒りを受けし者、また踏み迷える人々の道ではなく。』”（第1章5-7節）を詠むことにって祈願しています。

崇高なる我々の主は、クルアーンにおいて『われのしもべたちが、われに就いてあなたに問う時、（言え）われは本当に（しもべたちの）近くにいる。かれがわれに祈る時はその嘆願の祈りに答える。それでわれ（の呼びかけ）に答えさせ、われを信仰させなさい、恐らくかれらは正しく導かれるであろう。』（第2章186節）と語られています。私達が主に対して純粋な心で行ったドゥアは必ず認められます。祈願することは私達の責任であり、それを認めるのはアッラーです。アッラーは、私達にとって何か最も良いことであるかを熟知しておられます。そして愛する預言者（彼に平安あれ）は、『崇高なるアッラーは、地上においてムスリムであれば誰であれ、その望みを聞いてくださらないことはない。必ず返事をください、私達しもべが望んでいることをかなえるか、悪いことから守ってくださいます。または望んでいることがこの世でかなえなくても来世でかなえくださいます。』（ティルミザィ、ドゥア、 15）と述べ、行ったドゥアの答えが何らかの形で必ずかなえられるとおっしゃっています。

兄弟姉妹の皆様。ムスリムはいろいろな困難に直面した時だけ主に対して祈願するのではなく、逆に豊かで平安な時にも祈願します。こうすることにより困難や不安な時にもアッラーはその人と共におられます。我々の預言者（彼に平安あれ）は『誰であれ不安と困難の時に行われたドゥアがかなえられることを望んでいるのであれば、豊かで幸せな時に多くドゥアをするべきであろう』（ティルミザィ、ドゥア、8）と述べられ、豊かで平安な時に祈願することを私達に勧めています。つまりドゥアは崇拝であるからです。

ムスリムは行ったドゥアがかなえられるために必要な条件を整え、そしてこの世でアッラーに喜ばれる人生を歩むべきです。ドゥアが認めるにはまず精神的にも物質的にも純潔になることです。次は信仰心に溢れ、純粋な心を持つことです。つまりクルアーンでは『誠にアッラーは、悔悟して不断に（かれに）帰る者を愛でられ、また純潔の者を愛される。』（第2章222節）と述べられたおり、アッラーに愛される人のドゥアは必ずかなえられます。

不法のところで手をそめたり、人の権利を犯すことは、ドゥアの承認の妨げになります。ムスリムは合法的な方法で自ら働き生活費を稼ぎ、その稼いたものを使って糧を得た場合、ドゥアは認められます。聖預言者は人が髪もひげもめちゃくちゃになって泣きわめいたとしても、その人が飲食した物、来ている服がすべてハラームであった場合、ドゥアが認められるでしょうか』（ムスリム、ゼカート、65）『と述べられています。

親愛なるムスリムの皆様。私達は上記の条件のもとでのドゥアの承認に関して疑いを持ってはいけません。なぜなら崇高なるアッラーは、『われに祈れ。われはあなたがたに答えるであろう。』（第40章60節.）と仰せられ、我々が行ったドゥアを必ずかなえてくださるという吉報を伝えています。

本日のホトバを、我々の主によって勧められ、ドゥアの大切さを伝えているクルアーンの節で締めくくりたいと思います。『主よ、わたしたちがもし忘れたり、過ちを犯すことがあっても、咎めないで下さい。主よ、わたしたち以前の者に負わされたような重荷を、わたしたちに負わせないで下さい。主よ、わたしたちの力でかなわないものを、担わせないで下さい。わたしたちの罪障を消滅なされ、わたしたちを赦し、わたしたちに慈悲を御くだし下さい。あなたこそわたしたちの愛護者であられます。不信心の徒に対し、わたしたちを御助け下さい。』『主よ、現世でわたしたちに幸いを賜い、また来世でも幸いを賜え。業火の懲罰から、わたしたちを守ってください。』（第2章286節、 201節）